



日

# 本の源流再発見

File 19

岐阜県岐阜市

## 信長公の足跡が残る町



戦国時代、斎藤道三や織田信長の城下町として栄え、今なお岐阜県南部の中核都市として、また、ぎふ長良川鵜飼や岐阜城がそびえる金華山などを擁する観光都市として、にぎわう岐阜市。日本遺産「信長公のおもてなし」が息づく戦国城下町・岐阜」に認定されています。

ぎふ長良川鵜飼

## 伝統と豊かな自然を継承する町

岐阜市のシンボルといえば、岐阜城。鎌倉時代に二階堂行政がこの地に砦を築いたのが始まりと伝えられ、1539年ごろ斎藤道三が入城し本格的な城郭整備を始めます。当時は稲葉山城と称していましたが、1567年（一説には1564年）に織田信長が攻略に成功し、この地を岐阜と名づけたことから、岐阜城となりました。標高329mの金華山の山頂にあり、市内の至る所から見上げることができます。現在の天守閣は1956年に復興されたものですが、400年以上も前にどのようにしてこの山頂に巨大な城を築城でき

たのか、その技術と情熱には驚くばかりです。

金華山は、市内の中心部にあるにもかかわらず、今なお豊かな自然が残っており、山全体が国有林・鳥獣保護区として保護されています。山頂近くまではロープウェーが通っていますが、遊歩道も整備されているので、歩いて登ることもできます。ただし、かなり急傾斜のコースもあるので注意が必要です。

金華山のふもとにある岐阜公園には、発掘調査によって信長の居館があったことがわかっています。巨大な館と庭園があったようで、この居館で宣



鵜の庵 鵜

教師のルイス・フロイスなどの要人をもてなしました。

岐阜公園からほど近い場所に、今も古い町並みが残る川原町があり、長良川沿いには鵜飼観覧船乗り場があります。鵜を使って魚を捕る鵜飼は、長良川ではおよそ1300年前から行われて



▲ 岐阜城天守閣から望む長良川

岐阜城からはすぐ下を流れる長良川をはじめとする岐阜市内はもちろん、濃尾平野が一望でき、天気によければ遠く名古屋まで見渡せます。信長のように「天下人になった」気分が味わえるかもしれません



▲ ぎふ長良川鵜飼

毎年5月11日～10月15日まで、中秋の名月と増水時以外は毎日行われます。写真はクライマックスの魚を追い込む「総がらみ」です



▲ 川原町

川湊の近くに発展した集落で、かつては特産品の美濃和紙を扱う紙問屋や材木問屋が軒を連ねました。現在も独特の白木の格子が続く美しい町並みが残っています



▲ 織田信長公居館跡

写真は居館入口にある復元された冠木(かぶき)門。大きな池や滝のある庭園や高層の建物、茶室などがあったといわれています。

いました。そして、脈々と受け継がれてきた鵜飼を振興し、「おもてなし」に大いに活用したのもまた信長です。鵜匠<sup>うしやう</sup>という呼称も信長が付けたとのこと。現在岐阜市にいる6名の鵜匠は、いずれも「宮内庁式部職鵜匠」という職名を持ち、代々その家の男子が鵜匠を継ぐしきたりです。

ぎふ長良川鵜飼で鵜匠が操る鵜は、すべて茨城県日立市の鵜の岬で捕獲された海鵜です。長良川の鵜は基本的に放し飼いにされていますが、逃げることは決してないそうです。羽根切りするわけではなく、逃げる能力が

るにもかかわらず逃げないのは、鵜匠と鵜の間に特別な信頼関係があるからだといえます。その鵜と間近に触れあえ、鵜匠の山下純司さんと直接話ができる貴重な場所が、「鵜の庵 鵜<sup>いおし</sup>」です。鵜匠たちが集まって住む、長良川沿いの鵜飼屋地区にあり、食事や喫茶も楽しめます。

ココに注目

川原町の「住井富次郎商店」では、岐阜県の伝統工芸品の一つである岐阜団扇<sup>うちわ</sup>を製造・販売しています。塗りを施した美しく丈夫な団扇です。



日立グループ事業所紹介

今回訪れた岐阜県には日立コンシューマ・マーケティング株式会社 岐阜営業所があります。国内外の多岐にわたる分野において、日立の家電製品をはじめ、設備機器などの販売、施工、保守・アフターサービスを展開しています。

日立コンシューマ・マーケティング株式会社  
http://www.hitachi-cm.com/

岐阜県岐阜市宇佐南2-3-8